

2-4-4-3 定住意向について

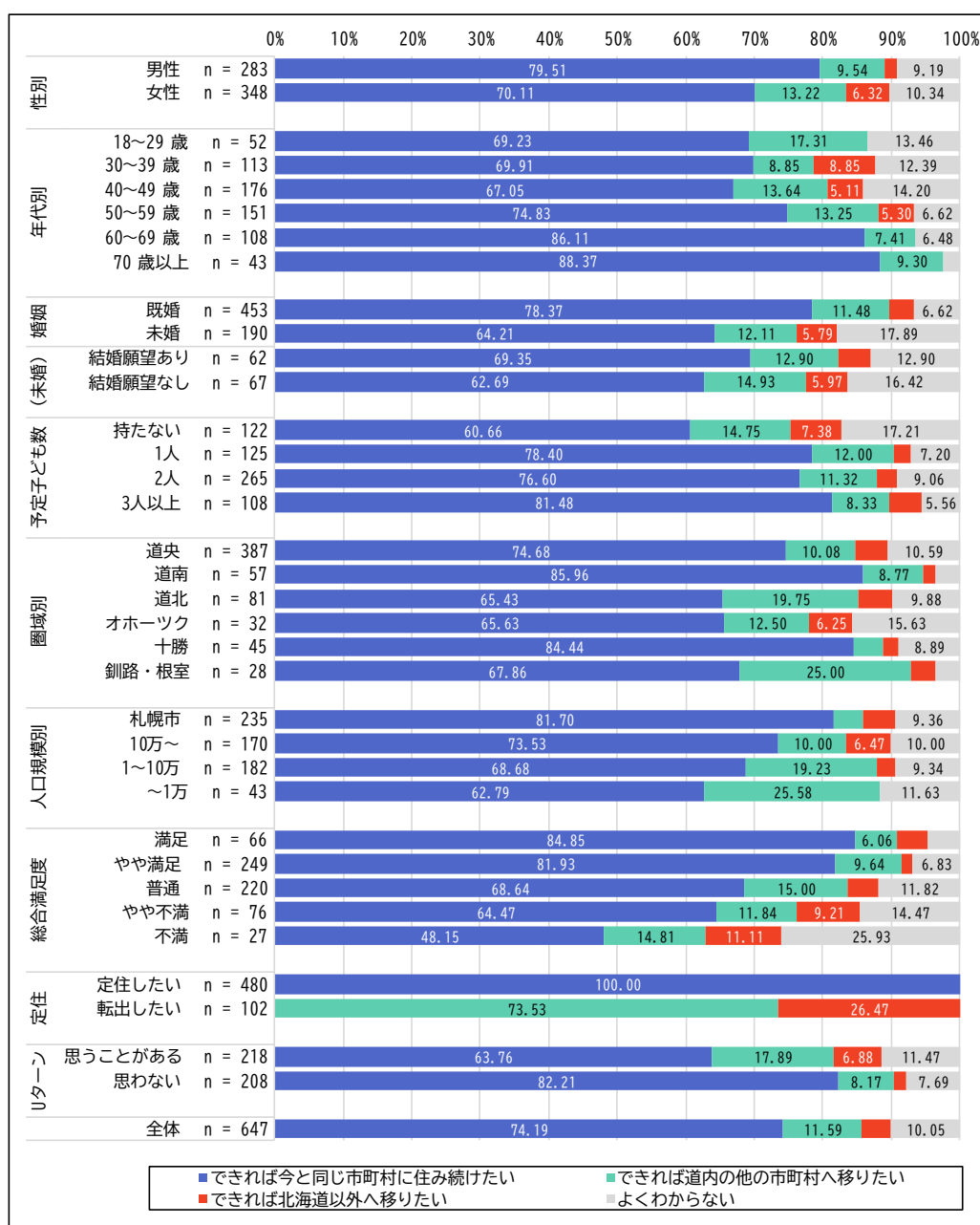
現在住んでいる市町村にこれからも住み続けたいと思いますか。

全体では「できれば今と同じ市町村に住み続けたい」が74.19%と、他の選択肢を大きく上回った(図表2-4-23)。

属性別では、年代が上がるほど、人口規模が大きいほど、生活環境の満足度が高いほど「できれば今と同じ市町村に住み続けたい」割合が高い傾向にある。

また、圏域別では十勝圏域で「できれば今と同じ市町村に住み続けたい」割合が有意に高い。十勝圏域は、6圏域の中でこの選択肢の割合が最も高く(『よくわからない』を計算対象から除いた場合)、人口のダム機能が他の圏域よりもはっきりと機能している現況を裏付けるものとなっている。

【図表 2-4-23 現在住む市町村への定住意向】



何が充実していれば、今と同じ市町村に住み続けることができますか。

全体では「安心できる医療・福祉」が63.55%で最も多く、「安定した生活ができる雇用の場」が43.03%で続く（図表 2-4-24）。「食料品や日用品など買い物の利便性」「鉄道やバスなど公共交通機関の利便性」も約4割の回答を得た。

年代による回答傾向の差が大きく、若年層では「子育て環境の整備や子育て世帯への支援」「学校など充実した教育環境」「趣味や娯楽等の施設」「安定した生活ができる雇用の場」の回答率が高い一方で、高齢層では「安心できる医療・福祉」の回答率が突出して高い。

「子育て環境の整備や子育て世帯への支援」については、男性の回答率が女性より8ポイント高いことも特徴的である。

【図表 2-4-24 定住に必要な要素】

		合計	安心できる医療・福祉	子育て環境の整備や子育て世帯への支援	学校など充実した教育環境	食料品や日用品の利便性	鉄道やバスなど公共交通機関の利便性	趣味や娯楽等の施設	安定した生活ができる雇用の場	地域の基幹産業の安定	事件や事故が少ない暮らしの安全	友人・知人がいることや地域のコミュニティなどとのつながり	5GなどのIT環境	その他
性別	男性	287	62.02	25.44	9.76	40.42	34.84	13.24	45.64	12.89	18.12	14.29	3.14	1.39
	女性	349	64.47	17.19	12.03	38.40	42.69	10.32	40.97	7.45	20.06	19.77	1.43	4.01
年代別	18～29 歳	53	47.17	32.08	13.21	35.85	32.08	32.08	32.08	47.17	3.77	13.21	16.98	3.77
	30～39 歳	113	52.21	46.02	20.35	25.66	32.74	19.47	43.36	9.73	10.62	15.93	3.54	3.54
	40～49 歳	176	54.55	22.73	17.61	39.77	32.39	9.66	51.70	10.23	19.89	14.77	1.70	3.98
	50～59 歳	153	68.63	7.84	3.92	47.06	44.44	5.88	44.44	11.76	22.88	15.03	3.27	2.61
	60～69 歳	110	79.09	11.82	3.64	45.45	45.45	5.45	30.91	9.09	26.36	21.82	0.00	1.82
	70 歳以上	44	88.64	9.09	4.55	38.64	50.00	9.09	27.27	9.09	20.45	27.27	0.00	0.00
婚姻	既婚	456	67.32	23.25	12.72	38.38	37.06	8.77	40.35	10.96	20.83	18.64	1.10	2.19
	未婚	193	53.89	16.58	7.77	42.49	42.49	18.13	49.22	6.74	16.58	13.99	4.66	4.66
	(未婚)													
	結婚願望あり	64	48.44	25.00	7.81	28.13	40.63	15.63	53.13	9.38	15.63	18.75	4.69	9.38
	結婚願望なし	68	64.71	5.88	4.41	52.94	48.53	22.06	47.06	5.88	11.76	8.82	5.88	0.00
予定子ども数	持たない	124	62.90	4.84	3.23	49.19	50.81	18.55	42.74	7.26	16.13	13.71	6.45	5.65
	1人	125	56.80	27.20	15.20	39.20	36.00	16.80	42.40	9.60	20.80	12.80	1.60	2.40
	2人	269	65.43	23.42	12.27	38.66	37.55	8.92	40.52	10.41	21.19	20.82	1.12	1.86
	3人以上	109	63.30	31.19	13.76	31.19	32.11	5.50	47.71	11.01	19.27	20.18	0.92	2.75
圏域別	道央	391	64.96	21.48	11.25	38.36	42.97	10.74	40.92	5.12	20.20	15.86	2.56	3.58
	道南	58	62.07	29.31	12.07	34.48	31.03	15.52	51.72	12.07	17.24	20.69	0.00	3.45
	道北	81	53.09	18.52	13.58	45.68	27.16	12.35	45.68	20.99	19.75	16.05	1.23	1.23
	オホーツク	32	68.75	12.50	3.13	40.63	31.25	18.75	53.13	12.50	21.88	9.38	6.25	0.00
	十勝	45	60.00	24.44	8.89	53.33	35.56	6.67	35.56	22.22	15.56	28.89	0.00	2.22
	釧路・根室	28	67.86	25.00	10.71	32.14	42.86	10.71	53.57	14.29	3.57	21.43	3.57	3.57
人口規模別	札幌市	239	66.53	23.43	12.55	38.08	40.17	10.46	43.10	4.60	22.59	14.23	2.51	2.93
	10万～	171	53.80	20.47	10.53	37.43	37.43	11.70	45.61	16.96	18.71	21.64	1.17	2.92
	1～10万	182	66.48	21.43	9.34	41.76	40.11	11.54	44.51	8.24	15.38	17.03	2.20	3.85
	～1万	43	67.44	18.60	11.63	51.16	30.23	16.28	30.23	16.28	13.95	16.28	4.65	0.00
総合満足度	満足	67	59.70	19.40	11.94	31.34	49.25	10.45	35.82	14.93	19.40	23.88	0.00	1.49
	やや満足	252	68.25	21.03	10.32	40.08	37.30	9.13	40.48	9.13	21.03	21.83	1.98	3.57
	普通	223	62.33	21.97	12.11	42.60	41.26	8.97	44.84	6.28	19.28	13.90	2.24	1.79
	やや不満	76	53.95	18.42	10.53	43.42	31.58	25.00	50.00	10.53	17.11	10.53	3.95	5.26
	不満	27	62.96	29.63	14.81	29.63	18.52	18.52	51.85	25.93	14.81	11.11	3.70	3.70
定住	定住したい	480	64.38	24.17	11.46	41.04	37.50	11.04	44.58	9.58	21.25	17.50	1.67	1.25
	転出したい	102	55.88	9.80	5.88	38.24	44.12	13.73	42.16	12.75	7.84	19.61	3.92	8.82
Uターン	思うことがある	219	60.27	26.48	13.70	36.99	36.07	15.98	43.84	12.33	17.81	14.16	3.20	1.37
	思わない	212	69.34	20.75	8.49	37.26	37.74	8.02	41.98	7.55	22.17	18.87	1.42	4.25
	全体	653	63.55	21.29	11.18	39.82	38.59	11.49	43.03	9.65	19.45	17.30	2.14	2.91

女性がその地域にとどまるために必要なこと

全体では「女性にとって多様な雇用先・職場が多くある」が70.43%と最も多く、「出産・育児のしやすさ、支援体制が整っている」「正社員として長く働き続けられる企業が多くある」までが過半数の回答を得ている（図表2-4-25）。

年代別では、「結婚したら男性の親と同居して当然という考え方等の縛りが無い」が18-29歳の若年層では有意に高く、年代が上がるにつれて減少する傾向がみられる。対照的に、「医療機関や介護施設などのサービスが充実している」は年代が上がるにつれて増加する傾向がみられる。

「医療機関や介護施設などのサービスが充実している」については、人口規模別では小規模な市町村で回答率が高い。人口減少による医療サービスへの悪影響は全体平均でも約半数が懸念している事項であり（上記設問を参照）、地方都市の維持において大きな課題の1つであると考えられる。

【図表 2-4-25 女性の定着に必要な要素】

	合計	正社員として長く働き続けられる企業が多くある	女性に多様な雇用先・職場がある	希望する進学先がある	出産・育児のしやすさ、支援体制が整っている	教育環境が充実している	医療機関や介護施設などのサービスが充実している	文化・娯楽等を楽しむ施設が充実している	地域の人間関係が良好	性別役割分担意識が固執していない	結婚したら男性の親と同居して当然という考え方等の縛りが無い	
性別	男性	278	56.12	69.42	12.95	57.91	10.43	18.35	8.99	14.03	7.91	9.71
	女性	337	54.90	71.51	19.88	54.90	14.84	21.66	11.28	8.61	8.31	8.90
年代別	18～29歳	54	51.85	64.81	18.52	57.41	9.26	14.81	16.67	9.26	11.11	20.37
	30～39歳	111	57.66	73.87	12.61	63.96	14.41	14.41	14.41	8.11	10.81	11.71
	40～49歳	174	60.34	74.71	16.09	54.60	13.22	16.67	8.05	10.34	7.47	8.05
	50～59歳	144	55.56	68.75	25.00	51.39	11.11	22.22	8.33	13.89	5.56	7.64
	60～69歳	106	51.89	67.92	14.15	57.55	12.26	26.42	9.43	13.21	10.38	6.60
	70歳以上	38	44.74	60.53	7.89	52.63	15.79	36.84	7.89	10.53	2.63	7.89
婚姻	既婚	443	55.53	70.20	19.86	56.43	13.32	21.22	10.38	9.93	5.87	8.58
	未婚	184	55.98	70.65	9.78	55.43	10.87	17.93	9.78	14.13	13.59	11.41
(未婚)	結婚願望あり	63	58.73	63.49	9.52	69.84	15.87	15.87	11.11	15.87	11.11	9.52
	結婚願望なし	64	54.69	68.75	10.94	42.19	6.25	14.06	12.50	6.25	17.19	17.19
予定子ども数	持たない	120	50.83	70.83	13.33	43.33	10.83	15.83	10.00	13.33	17.50	15.00
	1人	124	61.29	68.55	19.35	57.26	9.68	15.32	12.90	10.48	5.65	14.52
	2人	260	61.92	67.69	20.38	58.85	13.85	23.08	9.62	10.77	5.00	6.15
	3人以上	108	40.74	78.70	12.04	62.04	13.89	23.15	8.33	11.11	8.33	6.48
圏域別	道央	376	56.91	69.95	15.16	59.31	11.44	20.48	9.57	10.90	8.24	10.64
	道南	58	46.55	77.59	24.14	51.72	24.14	12.07	10.34	13.79	5.17	8.62
	道北	83	55.42	67.47	21.69	50.60	10.84	19.28	15.66	12.05	13.25	6.02
	オホーツク	30	60.00	70.00	13.33	50.00	6.67	16.67	13.33	10.00	10.00	10.00
	十勝	42	57.14	61.90	16.67	50.00	4.76	19.05	9.52	19.05	4.76	9.52
	釧路・根室	27	44.44	81.48	18.52	51.85	14.81	40.74	3.70	0.00	3.70	3.70
人口規模別	札幌市	229	59.83	71.18	17.47	58.08	13.97	15.28	9.17	9.61	8.73	10.92
	10万～	166	55.42	73.49	20.48	53.61	12.05	15.06	12.65	14.46	8.43	6.63
	1～10万	177	53.11	69.49	14.69	57.63	9.60	30.51	7.91	9.04	7.34	8.47
	～1万	44	40.91	56.82	11.36	47.73	11.36	22.73	18.18	18.18	9.09	15.91
総合満足度	満足	65	61.54	67.69	18.46	53.85	13.85	20.00	6.15	16.92	9.23	10.77
	やや満足	250	56.40	71.60	18.40	55.20	15.20	19.60	11.20	9.20	8.80	7.60
	普通	210	56.19	69.52	16.19	58.10	11.43	23.33	9.52	10.95	6.19	10.48
	やや不満	75	50.67	73.33	13.33	57.33	8.00	12.00	10.67	14.67	8.00	12.00
	不満	25	44.00	64.00	16.00	56.00	4.00	28.00	16.00	12.00	16.00	8.00
定住	定住したい	463	56.80	71.27	16.63	56.80	12.96	20.09	8.86	10.58	7.13	8.86
	転出したい	97	56.70	68.04	11.34	60.82	9.28	21.65	14.43	14.43	7.22	11.34
Uターン	思うことがある	214	56.07	71.96	18.69	56.07	9.81	15.42	14.02	10.75	7.94	8.88
	思わない	201	57.71	68.16	14.43	57.71	10.95	23.38	9.45	12.94	9.45	9.95
	全体	629	55.64	70.43	16.85	56.12	12.56	20.19	10.17	11.29	8.27	9.38

2-4-4-4 結婚について

結婚していない理由について（未婚者のみ回答）

全体では「適当な相手と巡り合う場所や機会が少ないから」が41.28%で最も多い（図表2-4-26）。結婚願望の有無による差が大きく、結婚願望がある層では「適当な相手と巡り合う場所や機会がないから」「交際してから、まだ期間が短いから」「仕事が忙しくて相手を見つける余裕がないから」「経済面に不安があるから・経済的に余裕がないから」の回答率が有意に高く、結婚願望がない層では「結婚生活よりも自分の仕事や生活を優先したいから」「必要性を感じないから」の回答率が有意に高い。

【図表2-4-26 結婚していない理由】

		合計	適当な相手と巡り合う場所や機会が少ないから	交際してから、まだ期間が短いから	仕事が忙しくて相手を見つける余裕がないから	経済面に不安があるから・経済的に余裕がないから	結婚生活よりも自分の仕事や生活を優先したいから	必要性を感じないから
性別	男性	76	44.74	1.32	19.74	53.95	32.89	28.95
	女性	92	40.22	5.43	9.78	26.09	41.30	38.04
年代別	18～29 歳	45	48.89	8.89	13.33	51.11	44.44	31.11
	30～39 歳	43	48.84	4.65	30.23	39.53	37.21	25.58
	40～49 歳	33	36.36	0.00	12.12	42.42	45.45	42.42
	50～59 歳	39	35.90	0.00	5.13	30.77	23.08	33.33
	60～69 歳	12	16.67	0.00	0.00	16.67	33.33	58.33
	70 歳以上	0						
婚姻	既婚	0						
	未婚	172	41.28	3.49	14.53	39.53	37.21	34.30
(未婚)	結婚願望あり	64	59.38	7.81	23.44	42.19	25.00	9.38
	結婚願望なし	66	24.24	0.00	6.06	30.30	54.55	63.64
予定子ども数	持たない	81	37.04	2.47	13.58	37.04	45.68	46.91
	1人	30	53.33	0.00	16.67	40.00	20.00	33.33
	2人	45	42.22	8.89	11.11	44.44	40.00	15.56
	3人以上	7	57.14	0.00	14.29	28.57	14.29	28.57
圏域別	道央	114	42.98	5.26	14.04	39.47	33.33	36.84
	道南	9	33.33	0.00	22.22	33.33	44.44	55.56
	道北	16	43.75	0.00	18.75	37.50	43.75	18.75
	オホーツク	15	33.33	0.00	13.33	33.33	46.67	40.00
	十勝	6	50.00	0.00	16.67	50.00	50.00	0.00
	釧路・根室	8	37.50	0.00	12.50	50.00	37.50	25.00
人口規模別	札幌市	74	45.95	5.41	14.86	33.78	32.43	32.43
	10万～	34	38.24	0.00	23.53	44.12	47.06	35.29
	1～10万	46	39.13	4.35	6.52	52.17	28.26	34.78
	～1万	14	35.71	0.00	21.43	14.29	64.29	42.86
総合満足度	満足	14	57.14	0.00	14.29	35.71	35.71	42.86
	やや満足	51	43.14	7.84	11.76	35.29	41.18	29.41
	普通	67	37.31	1.49	17.91	40.30	37.31	32.84
	やや不満	28	35.71	3.57	14.29	53.57	39.29	42.86
	不満	11	54.55	0.00	0.00	27.27	18.18	36.36
定住	定住したい	108	39.81	2.78	14.81	39.81	32.41	34.26
	転出したい	31	48.39	6.45	16.13	38.71	48.39	32.26
Uターン	思うことがある	56	42.86	7.14	19.64	37.50	41.07	37.50
	思わない	49	32.65	4.08	10.20	34.69	34.69	32.65
	全体	172	41.28	3.49	14.53	39.53	37.21	34.30

結婚を希望する人への支援策

全体では「夫婦がともに働き続けられるような職場環境の充実」が53.94%で最も多く、「安定した雇用機会を提供すること」がほぼ同率の53.79%で続く（図表2-4-27）。

「結婚した方が有利となるような税制を行うこと」は男性で有意に高く、女性で有意に低い。年代別では、「安定した家計を営めるよう賃金など待遇面の支援をすること」「結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと」など若年層で金銭面の支援を求める声が多く、「安定した雇用機会を提供すること」は比較的高齢層での回答が多い。

また、実際に結婚を希望している未婚者の動向をみると、「結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと」の回答率が有意に高い。

【図表2-4-27 結婚を希望する人への支援策】

		合計	出会いの場や機会を提供すること	結婚を推奨する活動を行うこと	安定した雇用機会を提供すること	安定した家計を営めるよう賃金など待遇面の支援をすること	結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと	結婚した方が有利となるような税制を行うこと	夫婦がともに働き続けられるような職場環境の充実	その他	特になし
性別	男性	280	27.86	7.14	56.43	49.29	29.29	31.43	45.71	2.50	6.07
	女性	339	34.51	2.65	51.33	49.56	22.42	14.45	60.18	1.47	5.01
年代別	18～29歳	53	24.53	3.77	37.74	54.72	47.17	18.87	52.83	3.77	3.77
	30～39歳	111	31.53	3.60	47.75	60.36	32.43	24.32	58.56	1.80	1.80
	40～49歳	173	33.53	5.20	56.65	53.18	22.54	27.17	51.45	3.47	4.05
	50～59歳	148	33.11	5.41	57.43	43.24	20.27	20.95	50.68	1.35	9.46
	60～69歳	104	30.77	3.85	58.65	43.27	24.04	11.54	56.73	0.96	6.73
	70歳以上	42	23.81	4.76	54.76	42.86	11.90	23.81	57.14	0.00	7.14
婚姻	既婚	446	33.18	4.26	58.74	50.00	22.42	21.97	55.61	1.79	3.59
	未婚	185	26.49	5.41	42.16	49.73	32.43	21.08	49.73	2.70	10.27
(未婚)	結婚願望あり	63	34.92	9.52	39.68	47.62	36.51	25.40	52.38	4.76	3.17
	結婚願望なし	66	18.18	1.52	43.94	51.52	30.30	16.67	46.97	3.03	15.15
予定子ども数	持たない	124	27.42	7.26	46.77	50.00	25.81	18.55	50.81	1.61	12.10
	1人	124	31.45	4.03	55.65	50.81	19.35	24.19	54.84	0.81	4.84
	2人	266	33.83	3.38	53.38	49.62	28.20	21.80	56.77	2.63	3.38
	3人以上	107	29.91	5.61	60.75	54.21	25.23	22.43	48.60	1.87	3.74
圏域別	道央	379	31.93	5.01	53.83	50.92	27.18	22.69	53.30	2.11	4.75
	道南	58	22.41	3.45	67.24	48.28	24.14	17.24	62.07	1.72	3.45
	道北	82	36.59	4.88	48.78	45.12	23.17	26.83	48.78	0.00	6.10
	オホーツク	31	22.58	9.68	32.26	61.29	29.03	22.58	51.61	3.23	12.90
	十勝	42	30.95	2.38	61.90	50.00	14.29	9.52	64.29	4.76	4.76
	釧路・根室	26	30.77	0.00	61.54	46.15	26.92	26.92	50.00	0.00	3.85
人口規模別	札幌市	231	30.74	4.76	53.25	53.68	28.14	22.08	55.41	1.73	3.46
	10万～	167	31.14	5.99	56.29	53.29	25.15	23.95	55.69	2.99	2.99
	1～10万	175	33.71	4.00	53.14	45.71	22.29	22.86	53.71	1.71	8.00
	～1万	45	22.22	2.22	55.56	37.78	26.67	11.11	42.22	0.00	11.11
総合満足度	満足	63	34.92	11.11	50.79	50.79	26.98	17.46	57.14	3.17	3.17
	やや満足	253	37.94	5.14	51.38	47.04	26.09	22.53	53.75	1.98	5.14
	普通	214	23.36	3.27	57.01	47.66	23.36	21.50	52.80	1.87	8.41
	やや不満	74	27.03	4.05	56.76	63.51	27.03	25.68	54.05	1.35	1.35
	不満	25	28.00	0.00	52.00	64.00	28.00	20.00	56.00	4.00	0.00
定住	定住したい	464	31.25	5.17	55.39	50.22	25.43	20.26	56.25	1.51	4.74
	転出したい	98	35.71	5.10	50.00	48.98	25.51	25.51	48.98	2.04	5.10
Uターン	思うことがある	215	33.02	6.05	54.42	55.81	27.91	27.44	54.42	2.79	1.86
	思わない	202	30.69	3.96	53.47	44.55	20.30	20.30	53.47	1.98	7.43
	全体	634	31.23	4.73	53.79	50.00	25.39	21.77	53.94	2.05	5.52

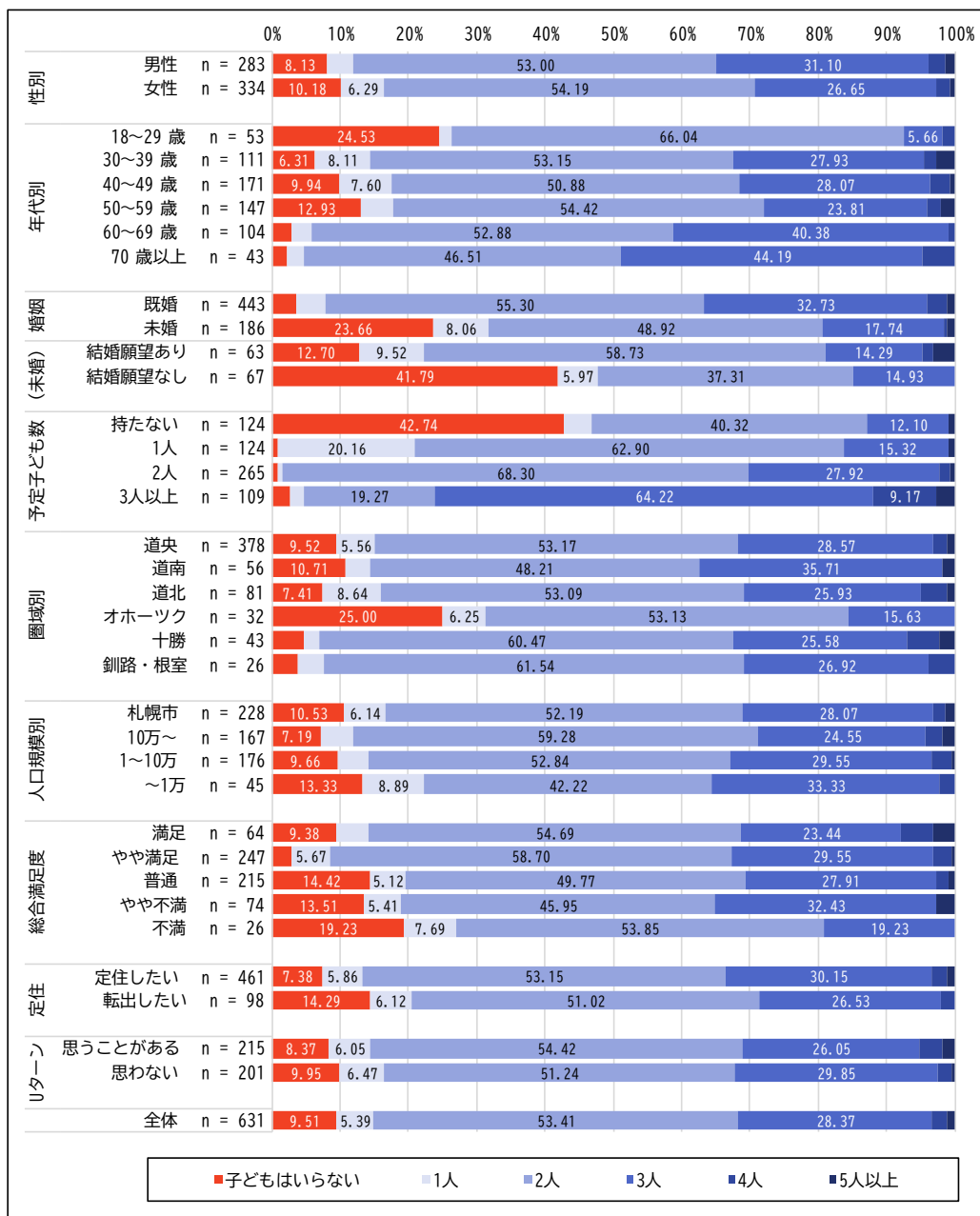
2-4-4-5 出産・子育てについて

理想的な子どもの人数

札幌市アンケートとも共通する設問（図表 2-4-6～8 参照）であるが、北海道アンケートは回答者に未婚者を含むことに留意。全体では「2人」が53.41%で過半数を占め、「3人」が28.37%で続く（図表 2-4-28）。全体平均は2.12人（「5人以上」は5人として計算。以下同様）で、人口置換水準の2.07人をわずかに上回っている。したがって、個々人がそれぞれ理想とする子どもの人数を生み育てることができれば、長期的には人口は自然増に転じるということとなる。

性別による理想の子ども数の差異をみると、男性（2.20人）で有意に多く、女性（2.06人）で有意に少ない。また、年代別では18-29歳（1.58人）で有意に少ない。

【図表 2-4-28 理想的な子どもの人数】

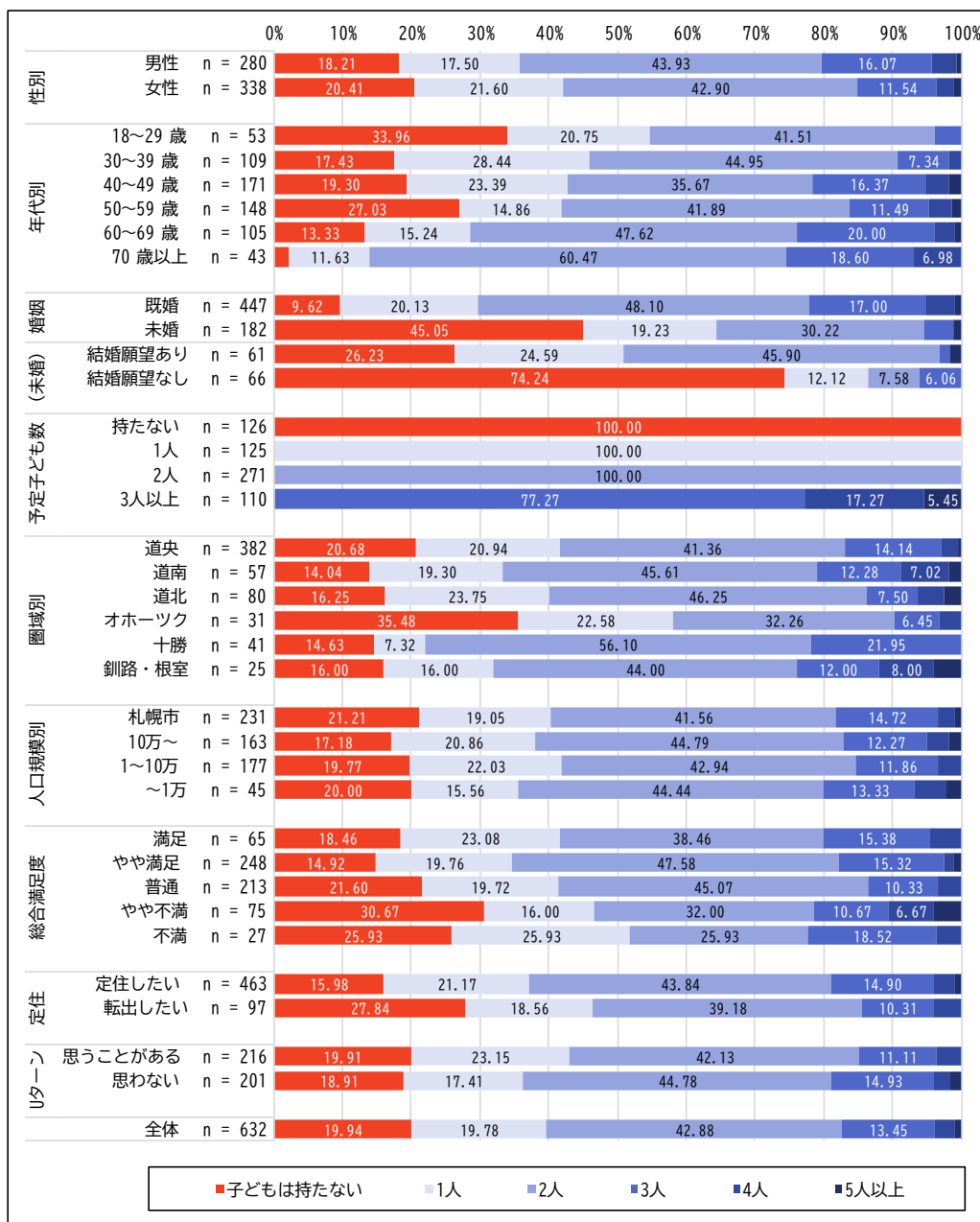


実際に持つつもり（又は実際に持った）子どもの人数

全体では「2人」が42.88%で最も多い（図表2-4-29）。全体平均は1.63人となり、人口置換水準を大幅に下回っている。

性別・年代別の傾向は理想の子ども数と同様で、男性（1.71人）で有意に多く、女性（1.57人）で有意に少ない。また、18-29歳（1.15人）で有意に少ない。この年代では、「子どもを持たない」の回答率が33.96%で、他の年代と比較しても突出している。

【図表2-4-29 予定する／実際に持った子どもの人数】



「実際に持つつもりの子どもの数」が「理想とする子どもの数」に比べて少ない理由

全体では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が53.17%で最も高く、過半数の回答を得た。「年齢的に子どもを生むのは大変だから」「ほしいけれども子宝に恵まれないから」と続く（図表2-4-30）。

年代別にみると、18-29歳では、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が他の回答と比較しても突出して高いことが特徴的である。30代では、「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」が32.08%で有意に高く、この年代では2番目に多い回答となっている。

【図表2-4-30 予定する／実際に持った子どもの人数が少ない理由】

	合計	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	家が狭いから	自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	子どものびびり環境ではないから	自分や夫婦の生活を大事にしたいから	年齢的に子どもを生むのは大変だから	これ以上、育児の心情的、肉体的負担に耐えられないから	健康上の理由から	ほしいけれども子宝に恵まれないから	夫または妻の家事・育児への協力が得られないから	夫または妻が望まないから	末子が夫または妻の定年退職まで成人してほしいから	その他	
性別	男性	107	55.14	10.28	13.08	10.28	7.48	28.97	12.15	11.21	11.21	3.74	9.35	5.61	13.08
	女性	137	50.36	5.84	18.25	4.38	8.76	29.93	13.14	18.25	21.90	5.11	2.92	2.92	9.49
年代別	18～29歳	16	68.75	0.00	12.50	12.50	18.75	6.25	6.25	6.25	0.00	6.25	0.00	6.25	18.75
	30～39歳	53	71.70	16.98	32.08	7.55	15.09	22.64	18.87	9.43	11.32	1.89	7.55	1.89	9.43
	40～49歳	68	54.41	5.88	13.24	11.76	7.35	36.76	11.76	23.53	20.59	2.94	5.88	7.35	10.29
	50～59歳	57	35.09	8.77	12.28	3.51	1.75	36.84	8.77	12.28	22.81	7.02	5.26	5.26	15.79
	60～69歳	40	47.50	2.50	10.00	2.50	7.50	30.00	10.00	5.00	25.00	7.50	7.50	2.50	10.00
	70歳以上	16	50.00	0.00	6.25	6.25	0.00	18.75	18.75	37.50	6.25	0.00	0.00	0.00	0.00
婚姻	既婚	183	54.64	8.74	15.85	5.46	7.65	29.51	14.21	13.66	20.77	4.92	7.65	4.92	6.56
	未婚	67	49.25	4.48	16.42	11.94	8.96	29.85	7.46	17.91	8.96	2.99	0.00	2.99	23.88
(未婚)	結婚願望あり	21	52.38	9.52	14.29	14.29	14.29	38.10	9.52	9.52	0.00	0.00	0.00	4.76	19.05
	結婚願望なし	25	40.00	4.00	16.00	12.00	4.00	40.00	12.00	28.00	8.00	4.00	0.00	0.00	28.00
予定子ども数	持たない	71	32.39	4.23	14.08	7.04	12.68	36.62	4.23	21.13	29.58	4.23	5.63	1.41	21.13
	1人	97	56.70	4.12	15.46	6.19	8.25	29.90	13.40	10.31	20.62	3.09	3.09	4.12	10.31
	2人	79	64.56	12.66	18.99	8.86	5.06	24.05	17.72	13.92	5.06	6.33	8.86	5.06	3.80
	3人以上	5	100.00	40.00	20.00	0.00	0.00	20.00	20.00	20.00	0.00	20.00	0.00	40.00	0.00
圏域別	道央	155	52.26	9.68	16.77	8.39	9.68	29.68	13.55	16.77	13.55	5.16	7.10	4.52	14.19
	道南	24	58.33	4.17	8.33	8.33	4.17	25.00	12.50	25.00	29.17	4.17	4.17	4.17	0.00
	道北	33	60.61	6.06	21.21	3.03	6.06	27.27	15.15	9.09	21.21	3.03	3.03	6.06	6.06
	オホーツク	10	40.00	0.00	20.00	0.00	0.00	50.00	10.00	0.00	20.00	0.00	10.00	10.00	30.00
	十勝	12	41.67	8.33	8.33	8.33	0.00	33.33	8.33	0.00	25.00	0.00	0.00	0.00	8.33
	釧路・根室	10	60.00	0.00	10.00	10.00	20.00	30.00	0.00	10.00	10.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人口規模別	札幌市	87	57.47	13.79	19.54	8.05	9.20	34.48	14.94	19.54	10.34	3.45	6.90	3.45	11.49
	10万～	63	52.38	4.76	9.52	4.76	3.17	33.33	9.52	15.87	23.81	1.59	4.76	4.76	4.76
	1～10万	78	50.00	5.13	15.38	10.26	10.26	23.08	14.10	10.26	16.67	7.69	6.41	6.41	16.67
	～1万	16	50.00	0.00	25.00	0.00	12.50	25.00	6.25	6.25	25.00	0.00	0.00	0.00	12.50
総合満足度	満足	25	40.00	8.00	24.00	12.00	16.00	28.00	8.00	16.00	24.00	4.00	4.00	12.00	12.00
	やや満足	96	47.92	5.21	21.88	2.08	7.29	29.17	16.67	17.71	19.79	6.25	5.21	3.13	6.25
	普通	86	59.30	9.30	12.79	5.81	5.81	29.07	8.14	9.30	19.77	3.49	8.14	4.65	11.63
	やや不満	34	64.71	8.82	5.88	20.59	11.76	26.47	17.65	20.59	8.82	5.88	2.94	2.94	23.53
	不満	11	45.45	9.09	9.09	9.09	9.09	54.55	0.00	9.09	0.00	0.00	0.00	0.00	9.09
定住	定住したい	182	51.65	7.14	15.38	7.14	7.69	30.77	11.54	17.03	15.38	4.40	6.59	3.85	10.99
	転出したい	42	54.76	11.90	21.43	4.76	14.29	26.19	11.90	4.76	28.57	2.38	4.76	7.14	7.14
Uターン	思うことがある	101	53.47	11.88	18.81	6.93	5.94	31.68	15.84	13.86	15.84	1.98	7.92	6.93	11.88
	思わない	66	43.94	4.55	12.12	6.06	6.06	36.36	7.58	12.12	16.67	3.03	6.06	3.03	12.12
	全体	252	53.17	7.54	16.27	7.14	8.33	29.76	12.30	14.68	17.86	4.76	5.56	4.37	11.11

出産・子育てに前向きになるために必要・大切なこと

全体では「安定した雇用と収入」が75.99%と最も多く、他の回答と比較しても突出している（図表2-4-31）。「仕事と家庭の両立支援、長時間労働など働き方の見直し」「教育費の軽減や奨学金制度の充実」「安心して保育サービスが利用できること」が4割前後で続く。

「配偶者が家事、育児への参画・分担に理解があり、積極的なこと」は性別による回答率の差が大きく、女性が男性より14ポイント上回っている。この項目は年代別では18-29歳の若年層でも有意に高い。

予定する子どもの人数別では、3人以上を予定する層で「教育費の軽減や奨学金制度の充実」が有意に高い。

人口規模別にみると、札幌市では「仕事と家庭の両立支援、長時間労働などの働き方の見直し」が有意に高く、「産婦人科などの医療提供体制の充実」は有意に低い。医療についてはより小規模な市町村に住む層からの回答率が高くなっているほか、他市町村や道外に転出したいと考えている層でも回答率が高い。

【図表 2-4-31 出産・子育てに前向きになる要素】

	合計	安定した雇用と収入	安心して保育サービスが利用できること	仕事と家庭の両立支援、長時間労働など働き方の見直し	産婦人科などの医療提供体制の充実	周産期・小児医療費や保育料などの経済的負担の軽減	教育費の軽減や奨学金制度の充実	配偶者が家事、育児への参画・分担に理解があり、積極的なこと	住居に関する支援が受けられること	地域や近隣の意識	子育て者同士の交流や相談の場が身近に利用できること	結婚・出産年齢が定かんなこと	婚外子を容認する社会的風土の醸成	祖父からの育児の支援が得られること	
性別	男性	280	77.50	33.93	45.36	11.79	11.79	42.14	11.79	10.36	5.00	6.79	5.36	2.14	5.71
	女性	339	75.22	40.41	44.84	22.12	13.57	34.22	26.25	4.42	3.24	5.90	3.83	2.65	3.54
年代別	18～29歳	53	73.58	28.30	52.83	5.66	16.98	33.96	32.08	5.66	1.89	7.55	3.77	3.77	5.66
	30～39歳	112	71.43	34.82	52.68	16.07	14.29	44.64	19.64	8.04	4.46	7.14	5.36	3.57	3.57
	40～49歳	176	80.68	41.48	43.18	18.18	14.20	36.93	17.61	7.95	4.55	3.98	4.55	2.27	3.98
	50～59歳	143	76.22	39.16	40.56	18.88	7.69	37.06	18.18	4.20	4.20	8.39	4.90	3.57	5.59
	60～69歳	105	78.10	37.14	42.86	20.95	13.33	33.33	17.14	7.62	3.81	10.48	3.81	0.00	3.81
	70歳以上	41	68.29	36.59	39.02	17.07	14.63	43.90	21.95	12.20	4.88	0.00	2.44	0.00	4.88
婚姻	既婚	447	76.29	41.61	42.06	18.79	13.87	41.16	17.00	6.94	3.80	6.94	3.36	2.01	5.37
	未婚	183	75.96	27.87	51.37	13.66	10.38	30.05	25.68	7.65	4.92	6.01	7.10	3.28	2.19
(未婚)	結婚願望あり	63	73.02	31.75	63.49	7.94	9.52	33.33	33.33	4.76	3.17	3.17	6.35	1.59	4.76
	結婚願望なし	63	80.95	17.46	44.44	20.63	11.11	25.40	17.46	9.52	4.76	6.35	11.11	4.76	1.59
予定子ども数	持たない	120	73.33	29.17	46.67	19.17	10.00	25.83	20.00	5.00	5.83	6.67	11.67	2.88	1.67
	1人	125	76.80	33.60	41.60	17.60	12.00	38.40	27.20	8.80	3.20	3.20	4.80	1.60	6.40
	2人	267	76.78	41.57	49.44	16.10	13.48	39.70	17.23	7.49	3.75	8.99	3.00	1.12	4.12
	3人以上	108	75.93	40.74	34.26	18.52	16.67	48.15	18.52	7.41	2.78	4.63	0.00	0.93	6.48
圏域別	道央	382	74.87	36.39	48.69	17.28	13.09	37.70	20.42	7.07	4.71	5.76	3.66	2.88	4.19
	道南	58	77.59	46.55	34.48	15.52	13.79	32.76	22.41	10.34	1.72	5.17	3.45	5.17	3.45
	道北	80	76.25	41.25	33.75	16.25	11.25	41.25	21.25	3.75	2.50	8.75	10.00	1.25	7.50
	オホーツク	30	83.33	20.00	46.67	23.33	3.33	43.33	16.67	6.67	10.00	13.33	6.67	0.00	3.33
	十勝	43	79.07	41.86	44.19	4.65	27.91	34.88	11.63	6.98	4.65	11.63	4.65	0.00	4.65
	釧路・根室	26	73.08	42.31	42.31	26.92	3.85	50.00	11.54	7.69	0.00	3.85	0.00	0.00	0.00
人口規模別	札幌市	232	74.14	37.93	55.17	9.48	11.21	39.66	22.41	8.62	3.45	5.17	3.88	2.59	5.17
	10万～	166	76.51	42.17	40.96	12.05	13.86	40.96	15.06	7.83	4.22	8.43	3.01	3.61	1.81
	1～10万	177	77.97	35.03	34.46	28.25	14.12	37.85	19.77	5.08	6.21	7.34	5.08	1.13	3.95
	～1万	44	75.00	31.82	45.45	27.27	15.91	22.73	20.45	2.27	0.00	6.82	11.36	2.27	11.36
総合満足度	満足	63	66.67	38.10	47.62	15.87	9.52	42.86	20.63	7.94	4.76	11.11	4.76	6.35	6.35
	やや満足	252	75.00	40.08	42.46	13.49	14.68	42.06	20.63	4.37	3.97	6.75	4.76	3.17	6.75
	普通	214	78.04	37.85	48.60	21.50	12.62	30.84	19.63	9.35	3.74	5.61	2.80	0.47	1.40
	やや不満	74	79.73	32.43	39.19	16.22	12.16	41.89	14.86	8.11	5.41	6.76	6.76	1.35	4.05
	不満	27	81.48	25.93	44.44	25.93	7.41	29.63	25.93	11.11	3.70	3.70	7.41	3.70	0.00
定住	定住したい	460	76.52	40.00	45.22	14.78	11.96	39.13	19.57	7.39	4.13	5.65	3.48	2.39	4.35
	転出したい	101	76.24	28.71	37.62	26.73	18.81	35.64	23.76	6.93	3.96	8.91	6.93	1.98	3.96
Uターン	思うことがある	218	77.06	36.70	43.58	17.89	16.51	35.32	15.60	8.72	4.13	6.42	5.50	3.67	3.21
	思わない	202	72.77	42.08	43.07	13.86	13.37	42.08	21.29	4.95	4.46	8.42	2.97	1.98	6.44
	全体	633	75.99	37.44	44.71	17.38	12.95	37.76	19.75	7.11	4.11	6.64	4.42	2.37	4.42

2-5 道内市町村の人口減少対策にかかる取組の把握

2-5-1 調査概要

2-5-1-1 調査目的

北海道における人口減少の現状や、若年層の意識の把握を踏まえた上で、実際に道内の自治体がどのような対策を行っているのかを把握するため、アンケート調査を実施した。

2-5-1-2 調査対象と調査方法

北海道内の 179 市町村を対象として、「出生率向上」「転入促進」「転出抑制」に係る 43 の施策の実施状況を調査した。アンケート票は、電子メールにて各市町村の担当部署へ配布し、返信をもって回収した。最終的に 179 市町村全てから回答を得た。

2-5-1-3 調査期間

2024 年 2 月 9 日（金）～3 月 14 日（木）

2-5-1-4 調査結果の凡例

各施策の実施状況については、以下の 4 択で回答を得る形式としている。以前から行われてきた施策と、近年注目度が増している施策との区別をすべく、2023 年度に実施している施策についてはその継続状況も問うている。

1. 2018～2023 年度まで継続して実施している。
2. 2023 年度に実施している（1.に当てはまる場合を除く）
3. 2018～2022 年度の間の実施したことがあるが、2023 年度は実施していない
4. 2018 年度以降一度も実施していない。

なお、調査結果の考察にあたっては、1.から順番に「継続実施」「今年実施」「以前実施」「未実施」と省略して表現している。

2-5-2 調査結果

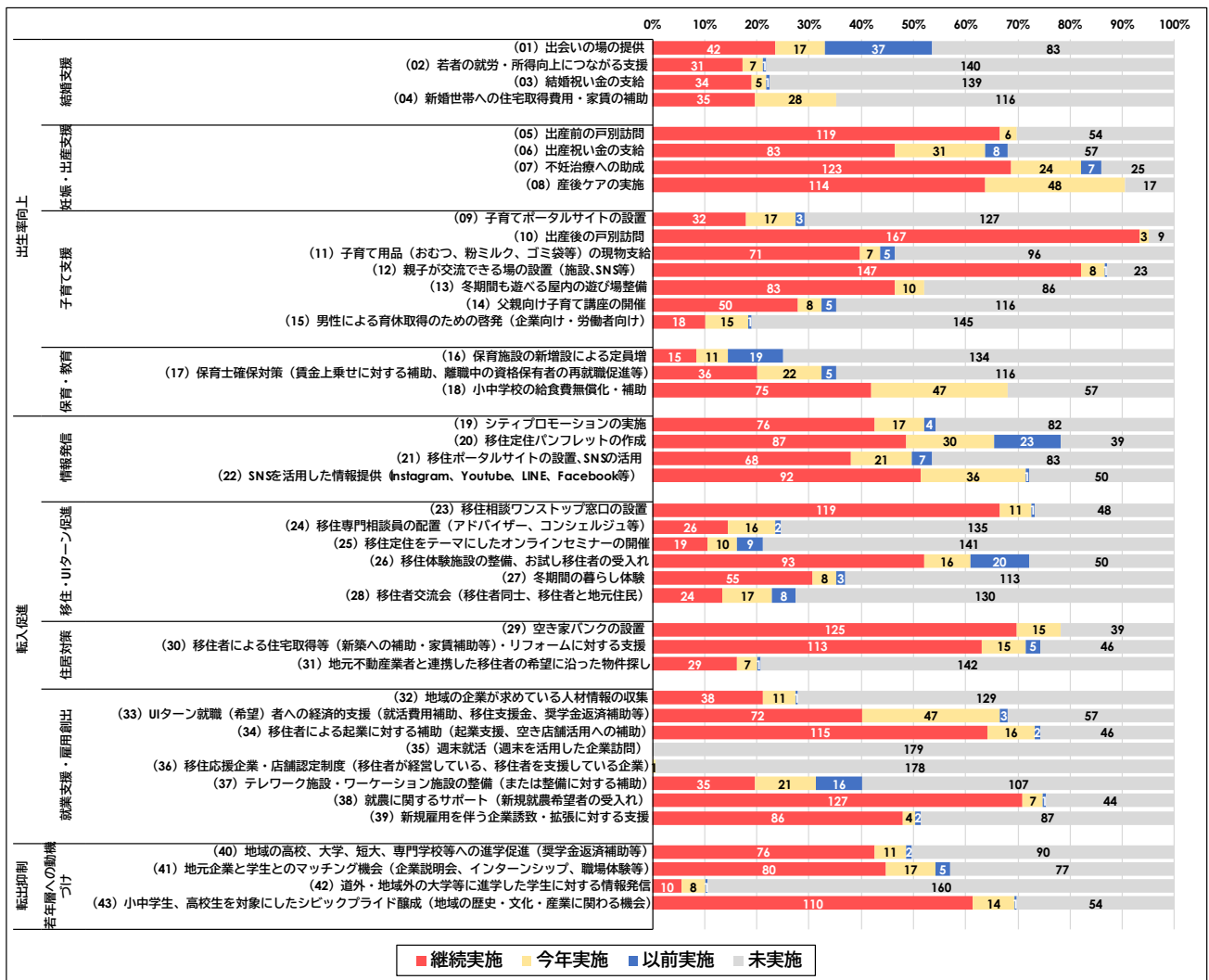
2-5-2-1 単純集計

単純集計の結果は図表 2-5-1 の通りである。最も実施率が高かった施策は「出産後の戸別訪問」で、170 市町村（94.97%）が実施（継続実施+今年実施）していると回答した。他に「産後ケアの実施」が162 市町村（90.50%）で実施率 9 割を上回った。この施策については、「今年実施」が 48 市町村と多くなっている。

同じく「今年実施」の回答数が多い施策をみると、「小中学校の給食費無償化・補助」「UI ターン就職（希望）者への経済的支援（就活費用補助、移住支援金、奨学金返済補助等）」がある。これらは対象者こそ異なるものの、対象を明確にして経済的に支援を行うものという点で共通している。

一方で、「以前実施」の回答数が多い施策をみると、「出会いの場の提供」「移住定住パンフレットの作成」「移住体験施設の整備、お試し移住者の受け入れ」がある。また、「保育施設の新增設による定員増」も同様に「以前実施」の回答数が多い。

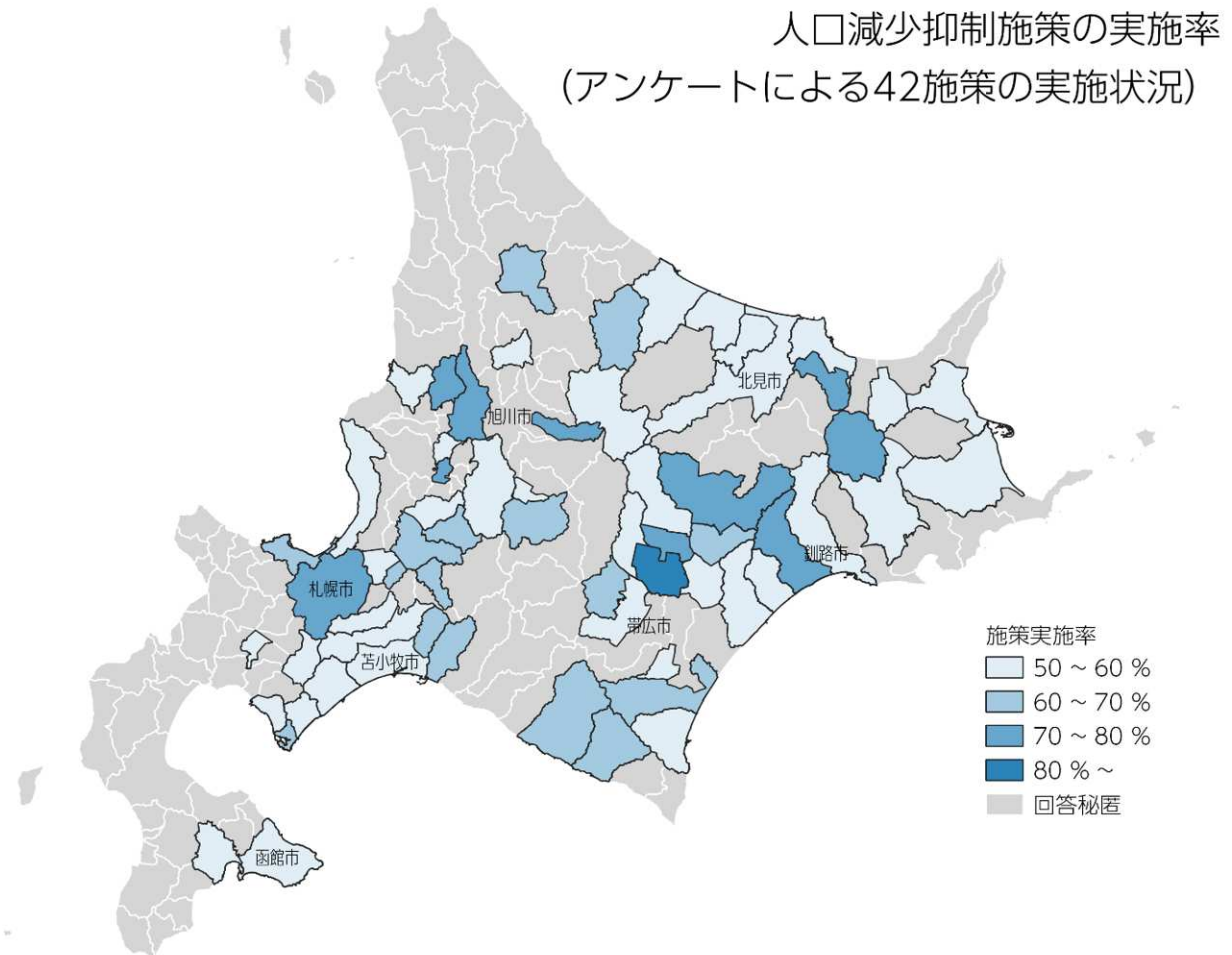
【図表 2-5-1 各種人口減少対策の実施市町村数】



2-5-2-2 市町村別の分析

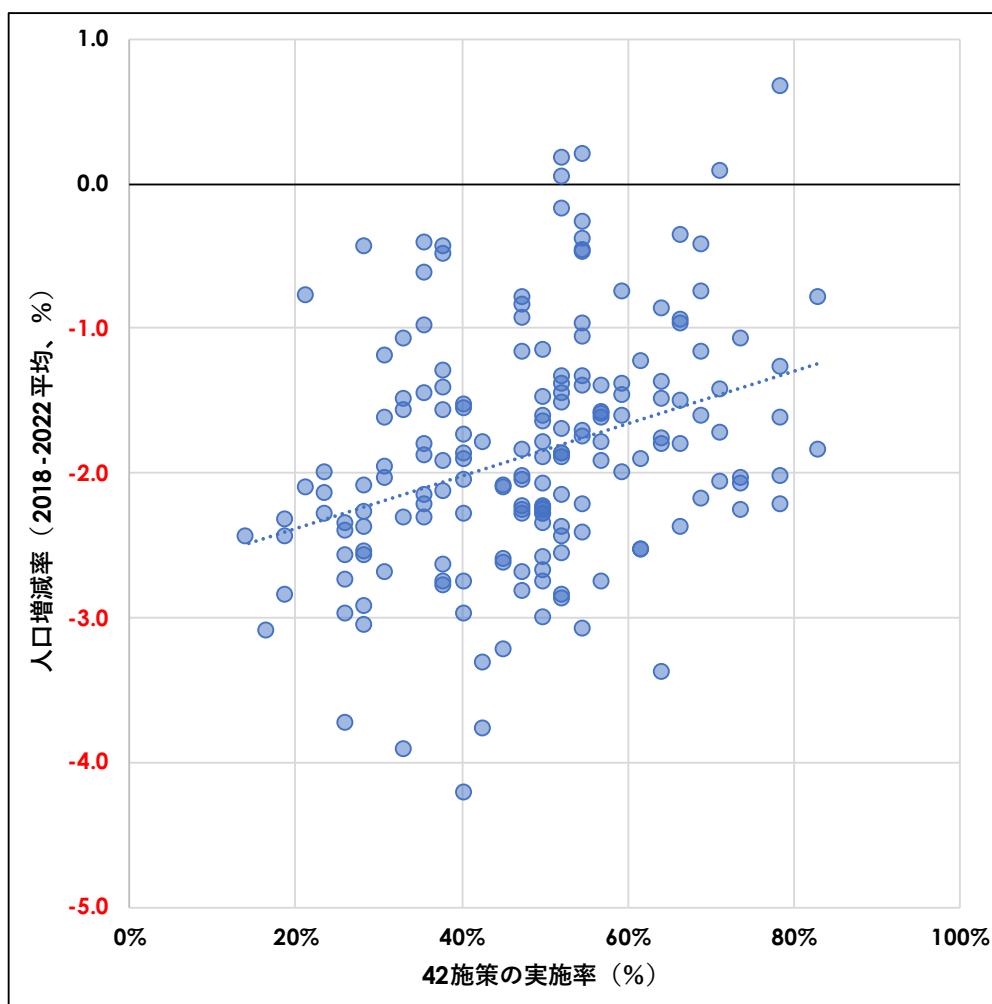
全市町村が未実施と回答した1施策を除いた42の施策のうち、「継続実施」「今年実施」と回答した割合が高い（21施策、50%以上）市町村を塗り分けたのが図表2-5-2である。

【図表 2-5-2 人口減少抑制施策の実施率が高い市町】



施策実施率と人口増減率（2018～2022年の5か年の平均）の相関係数は0.33と、わずかではあるが正の相関がみられた（図表2-5-3）。

【図表2-5-3 施策実施率と人口増減率との関係性】

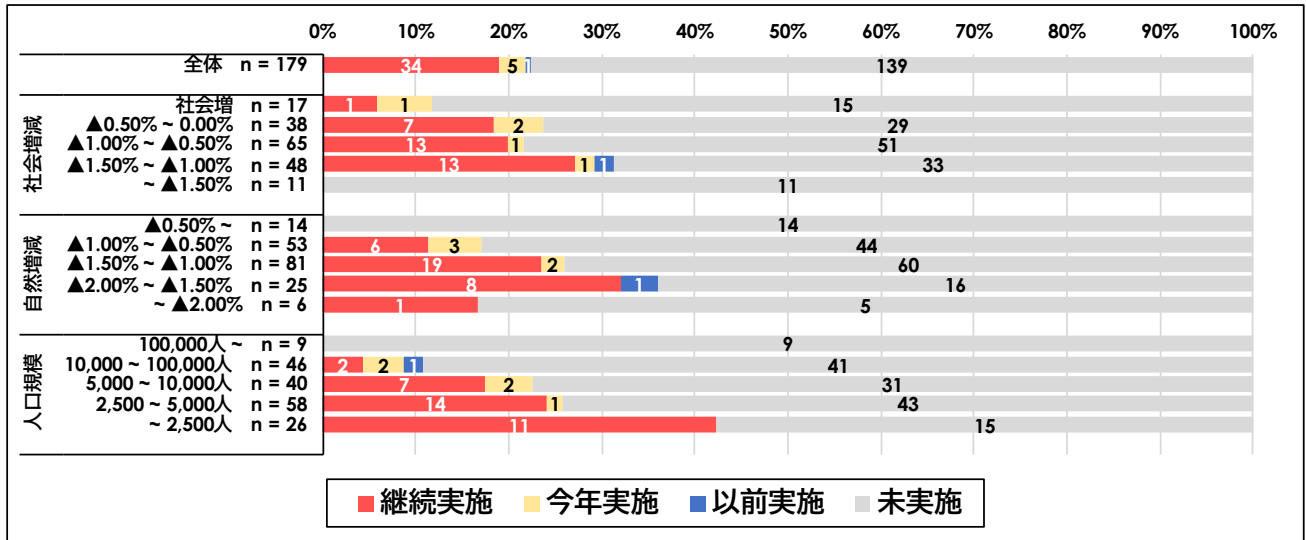


2-5-2-3 施策別の分析

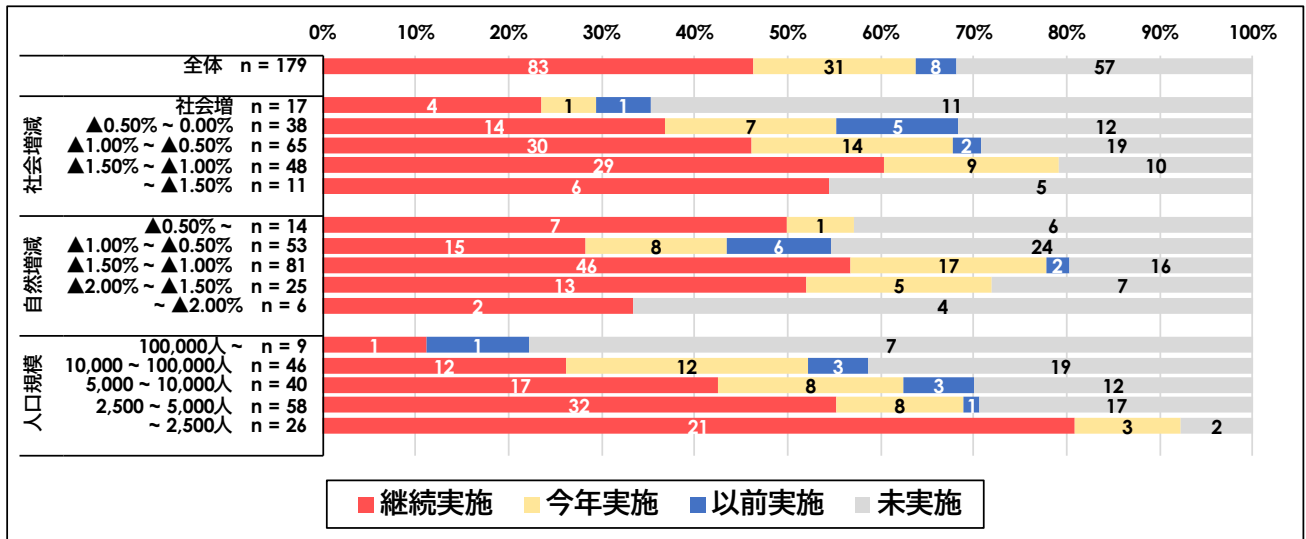
42 施策の実施状況について、市町村の人口規模や人口動態によって特徴的な傾向がみられるものを抜粋する。

結婚祝い金や出産祝い金の支給については、社会減が深刻な市町村や、人口規模が小さな市町村ほど実施率が高い傾向がみられる（図表 2-5-4, 5）。

【図表 2-5-4 結婚祝い金の支給】

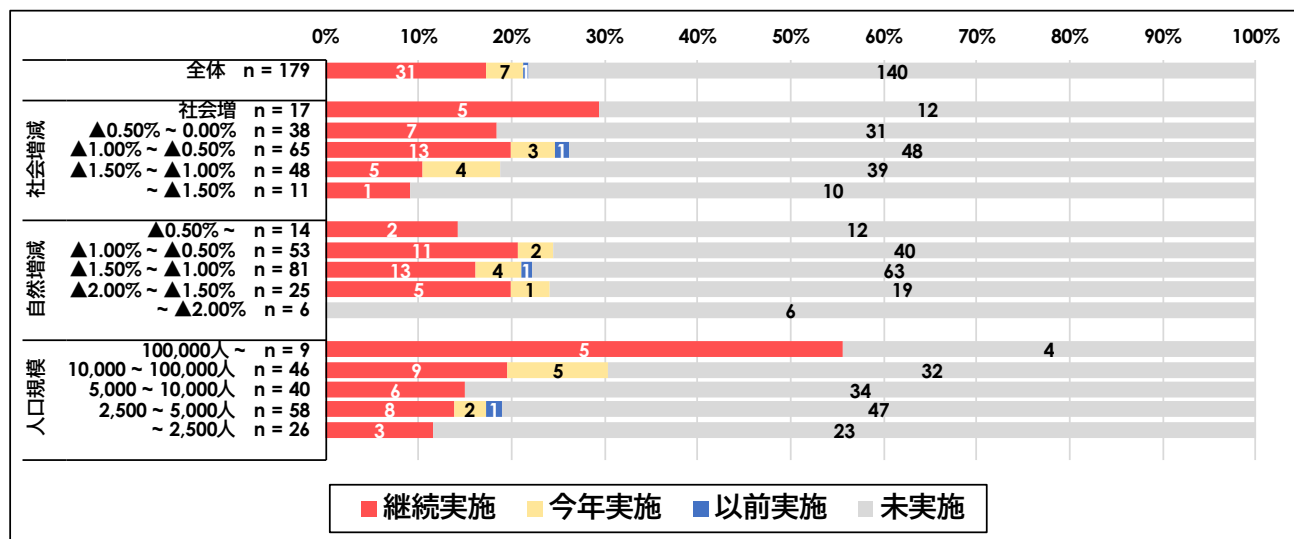


【図表 2-5-5 出産祝い金の支給】

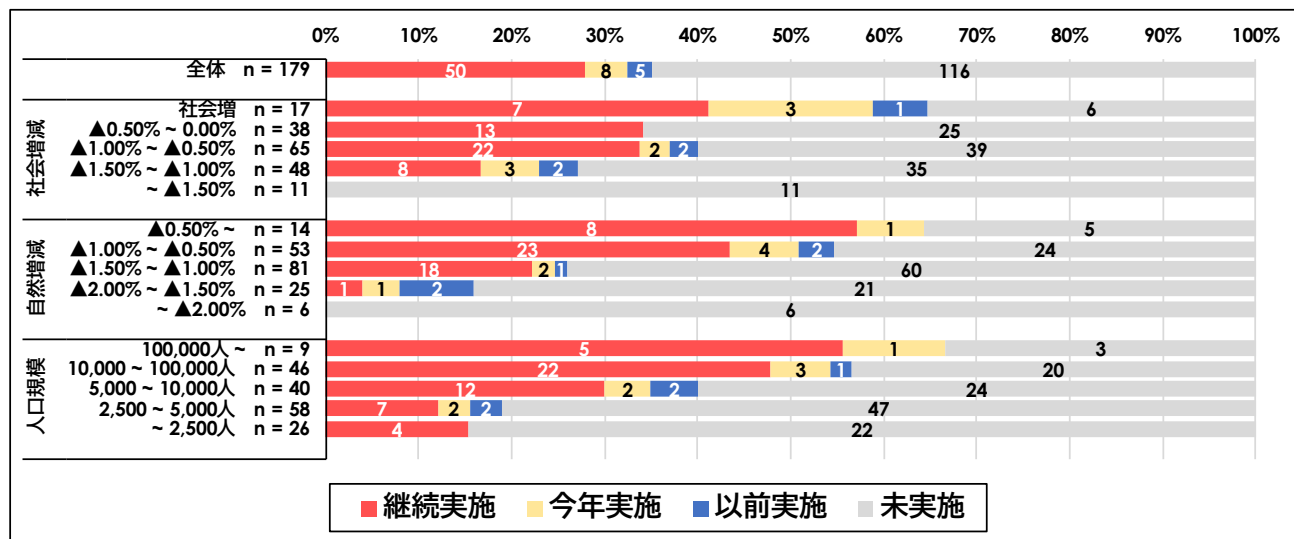


一方で、社会減が抑えられている市町村や人口規模の大きな市町村ほど実施率が高い傾向にあった施策としては、支援センターの設置などといった若者の就労・所得向上につながる支援や、保育士確保対策などが挙げられる（図表 2-5-6～10）。祝い金のような一律支給よりも、ある特定の分野に絞ったピンポイントな支援が多い。社会移動の大半を占める学生や若年層に対する施策は、地域で若い力を囲い込む意図があると考えられる。

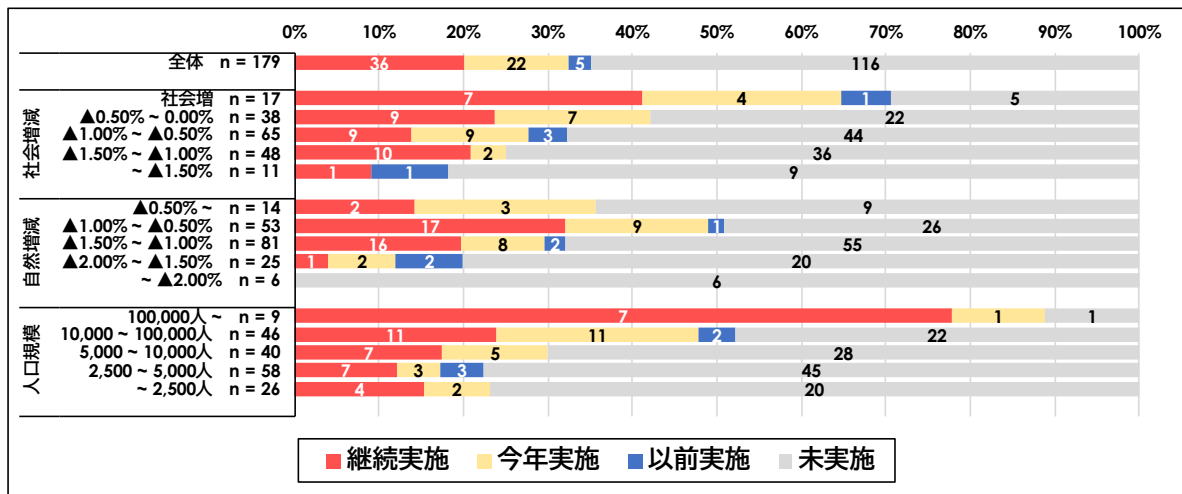
【図表 2-5-6 若者の就労・所得向上につながる支援】



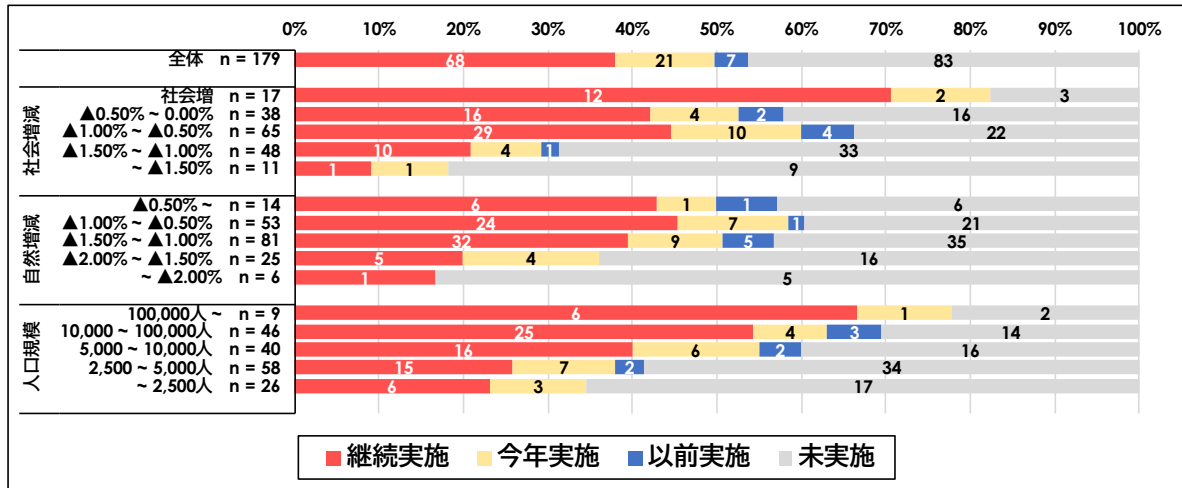
【図表 2-5-7 父親向け子育て講座の開催】



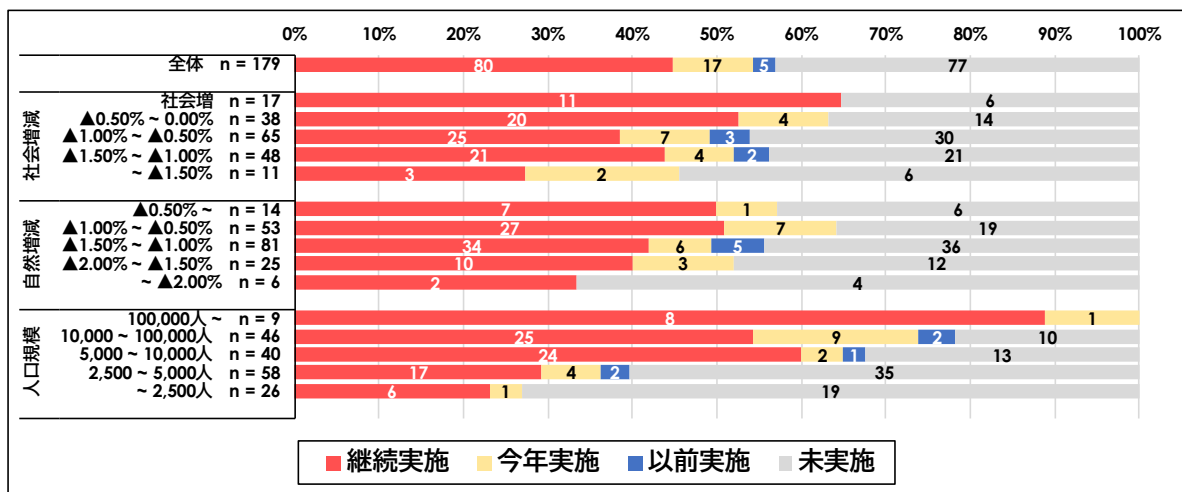
【図表 2-5-8 保育士確保対策（賃金上乘せに対する補助、離職中の資格保有者の再就職促進等）】



【図表 2-5-9 移住ポータルサイトの設置、SNS の活用】



【図表 2-5-10 地元企業と学生とのマッチング機会（企業説明会、インターンシップ、職場体験等）】



2-6 今後の人口減少対策の参考となる先行事例の分析

北海道の社会的・経済的な特徴や、人口減少に影響を及ぼす要因等を踏まえて、北海道の人口減少抑制策に有益な示唆をもたらすと考えられる先行事例を4事例整理した。

2-6-1 先行事例① 島根県海士町「島らしい生き方や魅力をPRし、滞在人口の入れ替わりで町の機能を維持」

人口減少対策の先行事例として、移住者を積極的に受け入れていることで人口減少を抑制している島根県海士（あま）町の取組を紹介する。

海士町は、島根半島の沖合約60kmに浮かぶ隠岐諸島の中ノ島という小さな島（面積33.43平方キロ、周囲89.1km）で、対馬暖流の影響を受けた豊かな海と、名水百選（天川の水）にも選ばれた豊富な湧水に恵まれ、自給自足のできる半農半漁の島である（図表2-6-1）。

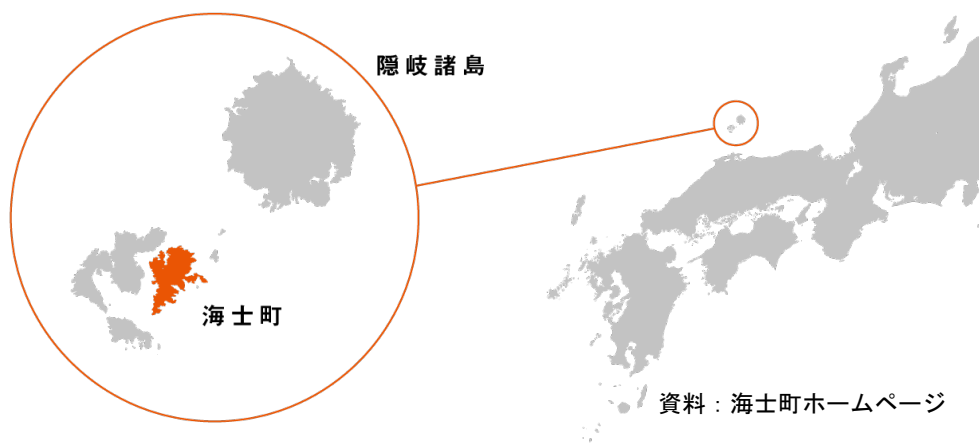
三位一体の改革による財政難の中、行財政改革や、特産品開発、高校の魅力化プロジェクトなど、海士町独自の取組を実施。ここ15年ほどで750人以上の移住者を迎え入れ、そのうち350人以上が現在も在島している。

平成23年から「ないものはない」いうキャッチコピーを使用し、「ないからこそ良い」という価値観を大事にしながら、「あるもの」を活かす知恵と工夫で暮らしを楽しもうとする島らしい生き方や魅力をPR。島という移住のハードルが高い特性を逆手にとり、滞在人口（目標200人）が入れ替わりながら人材還流を起こすことで、町の機能を維持する仕組みを取り入れている。

町独自では、金銭的な補助をするような移住支援施策は実施しておらず、金銭的な補助による「狩猟型」の移住施策ではなく、「大人の島留学プロジェクト」等の中長期の滞在型プログラムで、町との接点を作る中で移住したいと思ってくれる人を育てる「農業型」の移住施策を展開している。

海士町では、産業振興に挑戦し続け、全国からその担い手として多くの移住者がやってきている。移住者が増えることで、人口減少が抑制されるとともに、人口構成のバランスが改善されている。実際の人口推移をみると、国立社会保障・人口問題研究所の予測値を大きく上回っており、町の取組の成果が人口減少抑制という形で表れている（図表2-6-2～4）。

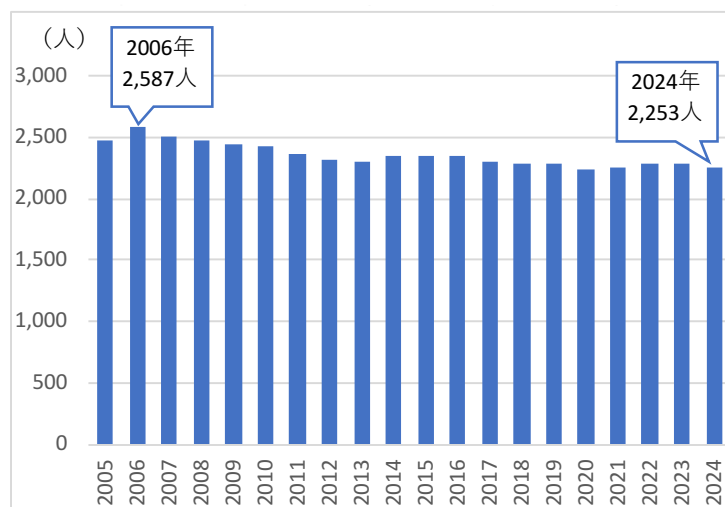
【図表 2-6-1 海士町の位置】



資料：海士町ホームページ

【図表 2-6-2 過去 20 年間の海士町の人口：各年 1 月 1 日】（左）

【図表 2-6-3 海士町の社会増減の推移】（右）



	転入 - 転出	転入			転出		
		計	県外	県内	計	県外	県内
2014	8	123	83	40	115	60	55
2015	13	133	99	34	120	66	54
2016	-11	115	82	33	126	69	57
2017	-6	141	98	43	147	92	55
2018	5	143	91	52	138	84	54
2019	4	153	108	45	149	89	60
2020	-6	140	98	42	146	95	51
2021	46	183	133	50	137	78	59
2022	31	195	153	42	164	108	56
2023	10	183	145	38	173	119	54

資料：しまね統計情報データベース（島根県）

■海士町で取り組まれている活動の事例

【商品開発研修生による「さざえカレー」の開発】

海士町が島ブランドとして開発した商品の第 1 弾が「さざえカレー」（平成 11 年発売）。島で当たり前のように食べていた「さざえ入りのカレー」をレトルト化して販売したところヒット商品となった。

この商品開発で活躍したのが「商品開発研修生」。1 年任期で採用される商品開発研修生は、よそ者の発想と視点で、特産品開発やコミュニティづくりに至るまで、海士にある全ての地域資源にスポットをあてて、商品化に挑戦する島の助っ人的な存在。

平成 10 年度の始まったこの研修生は、その後 20 年間で合計 30 人が採用され、そのうち 7 人が任期終了後に海士町に定住した。

【いわがき「春香」の養殖事業】

いわがきの種苗生産から養殖・販売までの一貫生産を目指して、地元漁師と U・I ターン者が協力して「隠岐海士のいわがき・春香」の養殖に成功。春から初夏限定のいわがきとして、首都圏に出荷されている（平成 14 年発売開始）。

海士町では、輸送時間による鮮度落ち等の理由で海産物の取引価格が低く抑えられており、漁業所得は伸び悩んでいた。そこへ登場した I ターンの仕掛け人は、取引単価の高い「築地市場」へいわがきを出荷し、完璧なトレーサビリティを売りに信用を得た。さらに、直販店への売り込みや消費者への直接販売を積極的に試み、所得向上に貢献した。

いわがき養殖が軌道に乗ると、都会から 7 名の I ターン者が「いわがきを養殖したい」と移住してくるようになった。

【隠岐牛の飼育、海士乃塩の製造、ナマコのブランド化】

隠岐固有の黒毛和種である「隠岐牛」の育成に取組み、ブランド化に成功。隠岐牛の飼育農家になりたいと、3家族が移住してきた。ミネラル豊富な本物の「海士乃塩」の製造を開始したところ、この塩を使った食育に取り組みたいと、料理研究家が移住してきた。いわがきに続く新しい産品として、ナマコのブランド化のIターンで移住してきた若者が取り組んでいる。

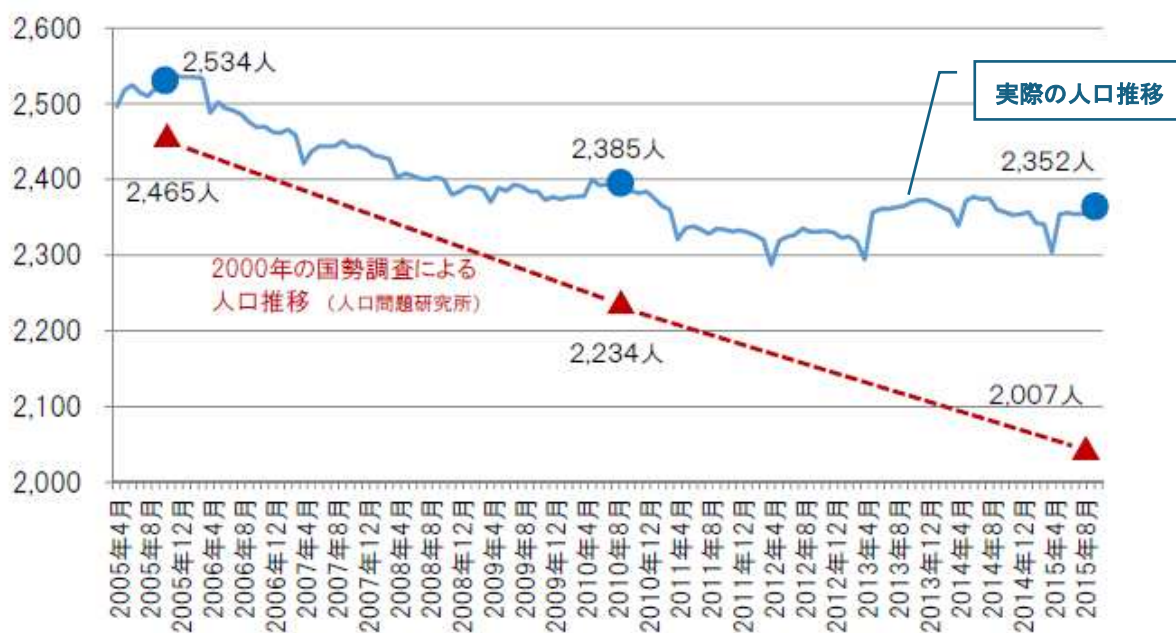
【高校の人材育成】

これからの人材を育成するために、島で唯一の高校の改革に着手。実践的なまちづくりや商品開発などを通して地域づくりを担うリーダー育成を目指す「地域創造コース」と、少人数指導で難関大学にも進学できる「特別進学コース」を開始（平成24年）。

全国から意欲のある生徒を募集する「島留学」などを開始したところ、高校の全校生徒数は、平成20年の約90名から平成27年には約160名にまで増加。

島特有の地域資源・地域人材を有効に活用することで、その地域でしかできない教育を追求し、地域活性化の貢献につなげている。

【図表 2-6-4 海士町の実際の人口推移と国立社会保障・人口問題研究所の予測値との比較】



資料：海士町創生総合戦略人口ビジョン（海士町）

2-6-2 先行事例② 岡山県西粟倉村「地域資源である森林を活用した製品開発支援、しごと・暮らし応援住宅の提供」

地域資源を活用した仕事づくりを通じて移住者を集めることで、地域の産業を守るとともに、人口減少を抑制している事例として、岡山県西粟倉村の取組を紹介する。

岡山県の北東部に位置する西粟倉村は、人口 1,318 人（図表 2-6-5, 2-6-6。令和 5 年 10 月 1 日現在）。村の面積の 95%が森林で、主な産業は林業・観光・農業。人工林率 84%は、岡山県で最も割合が高い。

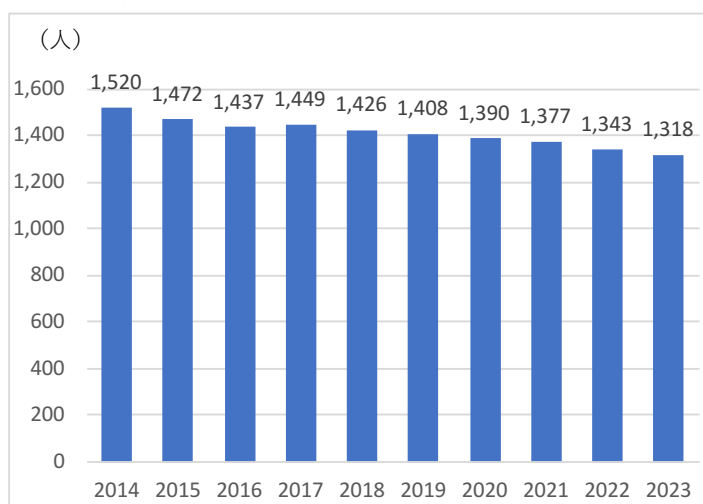
西粟倉村では、企業の撤退、倒産等による働く場の減少や少子高齢化により、人口が急激に減少。また、人工林の間伐が遅れ、山の荒廃が懸念されていた。

平成の大合併の中、自立の道を選択した村では、最大の地域資源である森林を活用し、裾野の広い産業に育成、拡大することにより、雇用の創出と、子育て世代等の受入れ・定住の促進を目指す取り組みを行ってきた。

西粟倉村への移住者は、現在 200 人を超えている。村の人口の 15%を超える人が、外部からの移住者という状況になっている。

【図表 2-6-5 西粟倉村の位置】（左）

【図表 2-6-6 西粟倉村の人口：各年 10 月 1 日】（右）



資料：岡山県毎月流動人口調査（岡山県）

資料：西粟倉村ホームページ

【西粟倉村百年の森林構想】

西粟倉村は、平成の大合併の動きを拒否して自分たちで生きるという道を選択した。村では、2008年に「百年の森林構想」を掲げ、2058年を目標年として「百年の森林」の実現に向けて村ぐるみで挑戦を続けていくことを宣言した（図表 2-6-7）。この宣言が、森林を活用した様々な取組に繋がっていく。

【図表 2-6-7 西粟倉村百年の森林構想】

<p>光の差し込む森づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人工林は野放しの状態で放っておくと枝葉が増えすぎて光が地面まで届かなくなります。その結果下草が生えず、深刻な土砂災害をまねく原因になります。 ・また、密集しすぎた木々は成長が遅れ、年月が過ぎても細いままのため、木材として一本あたりの材量が少なくなってしまう。それらを回避し、より良い森を作るために適切な間伐をし、光の入る森を維持することが求められます。
<p>皆様の山をお預かりします</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西粟倉村では、役場が森林所有者から森林をお預かりし、森林の間伐、作業道整備を行う取り組みをしています。 ・これは『百年の森構想』の中心となる協定であり、村の予算で効率的な森林整備を行い、10年間を一区切りとして長期に管理していくものです。美しい森林を守り、限りある自然の恵みを大切な人たちと分かち合える上質な田舎づくりを目指します。
<p>森の再生のための商品化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・森の再生を通じた地域経済の活性化を目的として、地域の資源を価値にする企業が設立されました。地域の経済につながるような、木材の加工、流通を事業として展開しています。 ・また、50年前に未来の子どもや孫のために植えた木を、立派な100年の森に育てていく使命を持つ百年の森林構想を応援してもらう仕組みとして、「共有の森ファンド」ができました。小口投資を募り多くの方に支えてもらうことで百年の森林を共に発展させる・支えてもらう試みです。

資料：西粟倉村ホームページ

【株式会社西栗倉・森の学校】

西栗倉村の最も有力な地域資源である森林資源を活かそうということで、「西栗倉・森の学校」を立ち上げた（図表 2-6-8）。

それまでは、村内に製材所がなかったので、伐採した木材は丸太のまま村外に販売していた。これでは付加価値が生まれないということで、「森の学校」が製材所を作り、椅子や机といった最終製品も作ろうという取組が始まった。当初は第3セクターであったが、2009年には株式会社化されている。

森の学校の商品で一番ヒットしたのが、60 cm四方くらいの床に敷く木の四角いパネル。このパネルをリノリウムやコンクリートの上に敷くと、その部分だけ木の雰囲気が出てくる。東京など都会の企業に売り込んだところ、必要な箇所だけ木のフロアができる点を受けて、売上が伸びた。

2020年からは、自社の木材加工工場で発生するおが粉と樹皮を混合したオリジナル樹皮培地を利用した、いちご栽培を開始。こうして栽培したいちごは、観光農園で収穫体験や販売を行っている。

森の学校の従業員数は、2023年4月現在で22名となっている。

【図表 2-6-8 森の学校】



写真：森の学校の木材加工工場（同社ホームページより）

【移住者の増加】

西栗倉村では、森の学校を中心にいくつかのベンチャー企業が生まれた。ベンチャーといっても、1～2人の企業だが、小さな村の中では大きな変化である。そうした動きに惹かれて、村でデザインをしたいという人たちが増え、若者が移住を始めている。これまでに、50を超えるベンチャー企業が設立された。

【移住者の受入れ策】

移住者受入れの課題の1つが、受け入れる住宅がないということ。西栗倉村では、村営住宅を用途変更した「移住者向け住宅」、分譲宅地の開発（7戸完売）、これから村で働こうという子ども連れ世帯向けの「しごと・暮らし応援住宅」、都市部企業やローカルベンチャー等との協働プロジェクトに参加する人向けの「ユニット型実証住宅」など、様々な形での住居整備を行っている。

こうした取組と、森林資源を活用した様々な仕事づくりが結びついて、これまでに200人以上の移住者受入れに繋がっている。

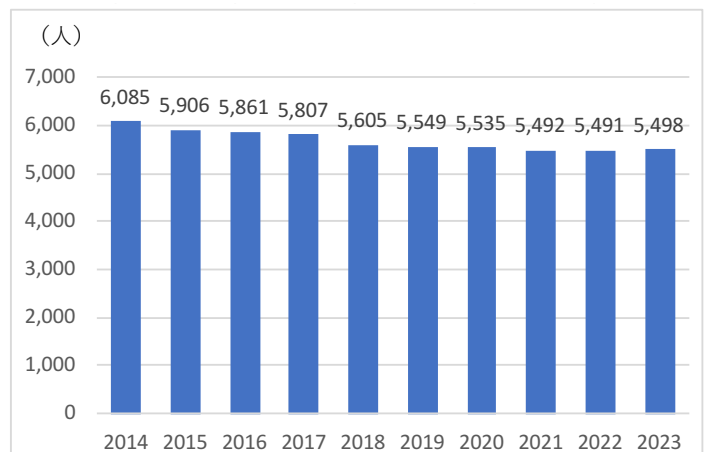
2-6-3 先行事例③ 岡山県奈義町「子育て中の母親に魅力のある『しごと』と『住まい』の提供」

子育て中の母親が働きやすい環境づくりを進めることで出生率を向上させた事例として、岡山県奈義町の事例を紹介する。

岡山県東北部に位置する奈義町は、面積 69.54 平方キロ、2023 年 1 月現在の人口は 5,498 人（図表 2-6-9, 10）。奈義町は、2014 年に岡山県算出の合計特殊出生率（15-49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの）が 2.81 と非常に高くなり注目された。その後、同じ条件で奈義町独自に試算したところ、合計特殊出生率は 2.0 を超えた高水準を保っている。2023 年には総人口で増加に転じている。

【図表 2-6-9 奈義町の位置】

【図表 2-6-10 奈義町の人口：各年 10 月 1 日】



資料：岡山県毎月流動人口調査（岡山県）

資料：奈義町定住ガイドブック（奈義町）

【地域社会で気負いのない子育て】

奈義町は、町全体がコンパクトで保育所や学校を含む主要施設が中心部に集約されており、子育て世帯にとっては地域住民のネットワークの中で必要なサポートが得られやすい環境にある。特に、母親同士の支援ネットワークも複数存在し、子育て中の母親の孤立を防いでいる（図表 2-6-11）。

行政の手厚い子育て支援に加え、地域住民間での声かけやサポートなどが緊密。母親同士のフォーマル、インフォーマルな支援ネットワークも複数存在し、子育て中の母親が孤立することが少ない。「先輩お母さん」にすぐに悩みを相談できる環境で、子育ての楽しさや充実感を実感しやすい。気負いなく、自然と2子目、3子目が生まれるケースが多い。

【図表 2-6-11 一時預かり保育「スマイル」】



写真：地域住民が協力して子どもを預かる一時預かり保育「スマイル」
資料：子育てサポートスマイルホームページ

【地域経済圏全体の中での安定的な就業環境】

近隣市町村を含む地域経済圏の中で、就業環境は安定している。町内での就業場所は製造業の工場や医療福祉関係の施設が多い。近隣自治体の企業や工業団地等に通勤する例も多い。

町内の農業法人による農産物のブランド化や6次産業化の取組により稼げる農業への転換が進んでおり、若者の新規就農もみられる。